

研修6 クラスルーム・イングリッシュについて

○研修のねらい

「研修6」では、クラスルーム・イングリッシュの意義を理解し、実際に体験してみます。教師自身がクラスルーム・イングリッシュを用いて、児童を褒めたり、適切に指示したりすることで、外国語を用いるモデルとなり、児童の学習への意欲を高めるようにすることを目指します。

クラスルーム・イングリッシュの意義

○児童の学習意欲を高め、授業の雰囲気をつくる

クラスルーム・イングリッシュは、外国語活動・外国語科の授業の雰囲気づくりとしても、大変重要です。「外国語（活動）の時間は、英語で話すよ！」と言って、教師が児童の前でできるだけ英語を使うように努力することは、児童のよいモデルとなり、児童の学習への意欲を引き出す点で効果的です。

クラスルーム・イングリッシュを使う際の留意点

クラスルーム・イングリッシュは、1単位時間の授業場面や学習内容に応じて、児童への指示や声掛け等で使います。

クラスルーム・イングリッシュを用いるときは、児童の理解の程度を確かめながらゆっくり、はっきり話すようにします。

○何度も聞く、繰り返し発音する、そして使ってみる

教師自身が、クラスルーム・イングリッシュを使えるようにするには、何度も聞き、繰り返し発音し、実際に使ってみることが大切です。

初めは英語の発音に自信がもてず、児童との英語でのやりとりに不安がある教師も、少しずつ使える表現を増やすことで、児童がクラスルーム・イングリッシュに慣れ親しむことができるようにします。また、動作をつけたり、絵カード等を示したり、時には日本語も効果的に混ぜながら使用します。そうすることで、教師の意図したことを児童に伝え、活動が滞らないようにします。

○簡潔に、分かりやすく、何度も聞かせる

いくつかの指示を出す必要がある場合は、簡潔な文で一文一文児童の理解を確認しながら指示するようにします。一度にたくさん指示を出したり、長文で指示をしたりすることは避けます。また、新出の表現を用いる場合は、何度も聞かせるとともに、動作を加えたり、絵を描いたりして児童の理解を助けるようにします。

クラスルーム・イングリッシュ（例）

授業の始まり・終わりのあいさつ

おはようございます。	Good morning.
こんにちは。	Hello. / Good afternoon.
英語の時間です。	It's time for English class.
今日はこれで終わりです。	That's all for today. / We're finished.
さようなら。	Good-bye. / See you.

指示①（基本）

立ちましょう。	Stand up, please.
座りましょう。	Sit down, please.
席に戻りましょう。	Go back to your seat, please.
準備はいいですか。	Are you ready?
始めましょう。	Let's begin. / Shall we begin?

指示②（活動等）

並びましょう。	Line up, please.
2列になりましょう。	Make two lines, please.
円になりましょう。	Make a circle, please.
円になって座りましょう。	Sit in a circle, please.
ペアになりましょう。	Make pairs, please. / Get into pairs, please.
5人組をつくりましょう。	Make groups of five, please.
4つのチームに分かれましょう。	Make four teams, please.

ほめる・励ます

正解です。	That's right!
よくできました。	Good! / Great! / Good job! / Well done!
素晴らしい。いいね。	Wonderful! / Excellent! / Fantastic! / Super! / Perfect!
あきらめないで。	Don't give up.
心配しないで。	Don't worry.
よくがんばったね。	Nice try! / Good try!
惜しい。	Close! / Almost!
それでいいよ。	That's good!

※ここで示したクラスルーム・イングリッシュは、一例です。

研修6 クラスルーム・イングリッシュについて

○事前に準備する物

- ・ 模造紙
- ・ 付箋紙
- ・ ICT 機器等（音声・動画再生用）
- ・ 研修6「解説編」（P 38、39）

○研修の留意点

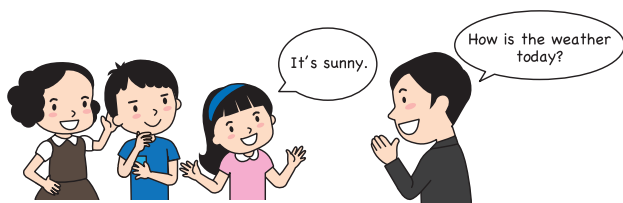
- ・ クラスルーム・イングリッシュの効果的な活用場面を確認すること。
- ・ 教師役と児童役に分かれて、実際にクラスルーム・イングリッシュを体験し、活用能力を高めること。

○研修例（45分）

時間	研修項目	研修内容	使用する物
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の英語の発話場面を想起すること。 ○クラスルーム・イングリッシュの意義や種類を理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォームアップを行う。 ○研修のねらいを伝える。 ○授業中、教師が使っている英語表現、声掛けをしたかったのにできなかった事例等を思い出し、話し合う。 ○クラスルーム・イングリッシュについて理解を深める。 ・ クラスルーム・イングリッシュの意義を知る。 ・ 様々なクラスルーム・イングリッシュを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本書 P 38、39
30分	<ul style="list-style-type: none"> ○校内のクラスルーム・イングリッシュについて共通理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内共通で使用するクラスルーム・イングリッシュを確認する。 ・ クラスルーム・イングリッシュを各自付箋紙に書く。 ・ 模造紙に仲間（テーマ）ごとに付箋紙を分けて貼る。 ・ 貼った付箋紙を動かしながら、取り扱う学年や順番、時期等を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模造紙 ・ 付箋紙
5分	<ul style="list-style-type: none"> ○研修を振り返ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスルーム・イングリッシュを繰り返し練習させたり、使ってみた感想について情報交換したりする。 	

○研修例（15分）

時間	研修項目	研修内容	使用する物
5分	○クラスルーム・イングリッシュの意義を理解すること。	○研修のねらいを伝える。 ○クラスルーム・イングリッシュの意義を説明する。	・本書P 38、39
10分	○クラスルーム・イングリッシュを体験すること。	○クラスルーム・イングリッシュを紹介する。 ○教師役と児童役に分かれて、クラスルーム・イングリッシュを体験する。	・ICT 機器等 (音声・動画再生用)



クラスルーム・イングリッシュの研修

外国語が身近にある環境づくり

コラム

外国語活動・外国語科の学習以外でも、日常的に外国語と接することができる環境を整えることで、外国語が児童にとって身近なものとなります。

例えば、次のような方法が考えられます。

- ・「クラスルーム・イングリッシュ」や学習で使用した教材等を教室や廊下に掲示する。
- ・教室の一角に「イングリッシュ・コーナー」を設けて、児童の作品等を紹介する。
- ・○曜日の朝の会と帰りの会では、日直の児童が「クラスルーム・イングリッシュ」を使って司会を進める。
- ・朝の会や帰りの会で歌を歌っている学級は、外国語の歌も取り入れる。
- ・廊下の案内板等に外国語を用いる。

児童と教師と一緒に外国語の表現を楽しみながら、コミュニケーションの幅を広げていけるように環境を整えていくことが大切です。